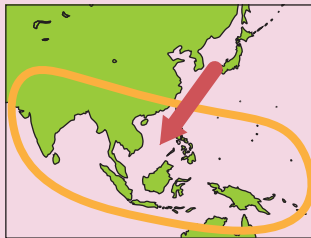


夏鳥の秋の渡り

子育てのため春に日本へ渡ってきて、秋になると南方に渡る鳥を「夏鳥」と言います。春から夏の間の日本は食べものが豊富です。しかし、冬は気温が低くなり、食べものが少なくなってしまう。そのため、「夏鳥」は秋になると日本より食べものが豊富な、南のあたたかい地域に移動して冬をすごします。



冬期の生息地

出典：『山溪ハンディ図鑑7 新版 日本の野鳥』を参考に作成

夏鳥を観察してみよう！

観察ポイント①木の実

秋の渡りでは木の実を食べている姿がみられるかもしれません。

観察ポイント②カラ類の混群

シジュウカラやヤマガラ、エナガ、コゲラなどで作る「混群」の中に混じっていることがあります。



タイサンボクをついばむキビタキ♀ 混群を構成するシジュウカラ

守ろう 観察・撮影のマナー

●鳥に近づきすぎない

近づくとき警戒して逃げてしまいます。鳥が嫌がる距離まで近づくとき、それまでしていたことをやめて動きを止めます。それ以上は近づかず立ち止まってみましょう。

●急な動きをしない

鳥は常に警戒しています。驚かさないように大きな声を出さず、静かなゆっくりとした動作を心がけましょう。

●鳴き声を流さない

録音した鳴き声を流すと、鳥は縄張りを守るために寄ってきますが、混乱させストレスを与えます。



●食べものを与えない

野生動物として持つべき警戒心や生態に悪影響を与えます。絶対に食べものを与えないください。



公園からのおねがい

- ・園内の生きものは採取したり、持ち帰らないようにしましょう。
- ・花畑や花壇、柵で囲った場所は入らずに観察しましょう。
- ・スズメバチに出会ったら、立ち去るまで待ちましょう。

夏鳥は今 どうしているの？



春に日本へ渡り、子育てをして夏をすごした夏鳥たちは、秋になると本来の生息地へ帰っていきます。

渡りの途中の鳥たちを観察してみましょう。

秋の渡りの途中に公園を訪れる夏鳥

山野で夏をすごした夏鳥たちが、秋の渡りの途中で昭和記念公園を訪れているかもしれません。旅立つ前の夏鳥をみてみましょう。

キビタキ

♪ヒッヒッ♪



オス



メス

鳥の大きさの測り方

ここでは全長を使用しています



●全長：約14cm

●ここをチェック：

林内、実がたくさんなっている木

●渡りの行き先：東南アジア地域

主に昆虫を食べます。飛んでいる昆虫を空中で捕まえる「フライキャッチ」という行動が特徴的です。秋の渡りの時期は木の実を食べる姿をみることがあります。

センダイムシクイ

♪ヒーヒー



- 全長：約13cm
- ここをチェック：
林内、水場
- 渡りの行き先：
東南アジア、南アジア地域

カラ類の混群に混じって、林内の移動や、水浴びをしている姿が観察できたらラッキー！

他にもいるよ！ 夏の渡り鳥

ここで紹介した鳥の他にも夏鳥として日本に渡ってくる鳥たちがいます。ツバメやアマツバメ、オオルリなどの小型の鳥や、サシバなどのタカの仲間です。ツバメやアマツバメは、公園の上空を飛んでいることがあります。

空をみあげたら出合えるかも ツバメ アマツバメ



空中の昆虫を飛びながら捕まえます